

大正五～九年、多くの方々が本堂建立に向けて寄付をして下さいました。『旭川別院百年史』をもとに、当時飢饉で苦しい生活を強いられていたにもかかわらず、本堂建立にご尽力下さった方々のお名前を紹介したいと思います。(最終回)

※7回に分けて記載致しました。

茶谷 外吉
塚越 伊蔵
塚谷安太郎
塚谷弥之助
月岡 藤市
辻 磯吉
辻 栄蔵
辻 小又郎
辻 仁三郎
辻 清太郎
辻 野乙松
津田仁右工門
津田清太郎
土田源次郎
土田 省蔵
都築 竹松
妻木虎次郎
妻木米次郎
寺澤長左工門
寺田嘉一郎
道三 久七
堂下吉太郎
堂下 熊吉
堂下 又作
堂前弥之助
土岐 シゲ
徳永 ヨシ
豊岡 太吉
豊岡 福松

苗手伝右衛門
中 常吉
長岡 徳治
中川 宗八
中川 ミサ
中川 助作
中島 五平
中島 サト
中島 滋次郎
中島 シヨ
中島 甚蔵
中島 捨次郎
中島 為吉
中島 常吉(母)
中島 ツル
中島 彦八
長田 木曾次
中塚 真吉
中西 兼蔵
中野 久蔵
中原 茂助
仲俣 石次郎
中村 三三郎
中村 宗七
中村 ハツ
中村 由太郎
仲村 定吉
中山 竹次郎
中山 藤蔵

中山松次郎
南保乙五郎
新澤安太郎
西 乙吉
西 竹吉
西尾 良吉
西川 善作
西川 弥右工門
西島 太三郎
西田 宇吉
西田 庄七
西野 喜太郎
西野 善作
西野 太三郎
西野 八十郎
西巻 泰治
西村 与三吉
西谷内信太郎
日光 伊三郎
日光大三郎
沼田 助太郎
野崎 宇太
野島 伊太郎
能登 谷利助
野村 トメ
橋本 彦次
橋本 久松
橋本 与太郎
橋本 ヨネ

長谷川 五年
畑中 喜一郎
花谷 栄吉
花輪 喜久造
馬場 宇太郎
馬場 作次郎
馬場 ミヨ
浜 伊三郎
早川 法雷
林 ツヤ
林原 善吉
原田 助太郎
樋口 清吉
平野 孫右工門
平野 巳之助
平野 弥右工門
廣岡 喜作
廣瀬 セン
廣田 利右工門
深地 タカ
深林 栄七
深見 テナ
福岡 孝一
福田 伊之助
福原 太十郎
藤井 作太郎
藤田 敦
藤田 嘉弥太

(敬称略)

別院しらべ隊

調査報告書No.12 伝承されし想い

所感

旭川別院輪番 澤田秀丸

「旭川は寒いですよ」と言われて輪番で赴任した旭川に、村が設置されたのは1890(明治23)年9月のことですが、その年に東本願寺・札幌別院(1871年創設)の僧侶・久教淵師(奈良県出身)が開教の志を抱いて、鉄道未開設の中旭川を訪れ、現在の曙1条7丁目の空き小屋を借りて絵像本尊を安置して、布教伝道をはじめたのが、旭川の地に仏教寺院創建の発祥となり、やがて旭川別院へと発展していきました。

さらに久師は、寺小屋を開設し開拓者の子ども達の教育にも情熱を注ぎました。

まさに旭川別院は、上川地方における仏教と教育の発祥の地であります。

皆様のご先祖方は、それぞれの故郷で受けた信心の喜びを胸に、未開の地の開拓に家族とともに身を運ばれ、半年に及ぶ酷寒の気候で、生活も安定しない非常に厳しい環境の中から、心の拠り所としての道内最大の木造建築の現在の旭川別院を創建され、信心の大花を咲かせられました。

私たちにとっても信仰の拠り所であります本堂・大門等の改修工事を成し遂げ、ご先祖の偉業を讃え、深い懇念で後々の子孫に伝えていきたいものです。

旭川別院・宗祖親鸞聖人750回御遠忌記念
本堂等改修工事施工

期間：2010年秋～2012年秋

調査員：草部・垣原・横井よ・長尾・高橋
2010年12月1日作成

「旭川別院本堂等改修工事」に寄せて

この度旭川別院では、宗祖親鸞聖人750回御遠忌記念事業として本堂等改修工事がなされるということで、過日「別院しらべ隊」調査員の横井恵雄さんが私の寺を訪ねてこられました。

その理由は、旭川別院史の資料を調べている中で、現在の本堂建立時の輪番が私の祖父、浅野識(あさのみとむ)だと知り、少しでも当時のことが分かればということでした。

しかし、祖父は、昭和23年11月、私が2歳に成る時76歳で亡くなり、正直祖父のことは私の記憶にはほとんどありません。又、私の実父(祖父の3男)も祖父より2年先に亡くなり、ただ唯一、亡き母が数年同居していたことで、時々祖父のことを語ってくれました。特に晩年は旭川別院のことを懐かしんでいたようです。

祖父について分かる範囲での記録を辿ると、祖父浅野識は現在の岐阜県羽島市の出身で、明治42年、函館別院根室支院の在勤となり、まもなく根室別院に昇格するや、本山の命で明治44年5月初代輪番として勤務いたしております。

そして大正4年5月に2代目旭川別院輪番(42歳)となり、大正11年4月まで奉職したことになっております。この間に本堂・大門の建立に着手し、大正9年にその竣工を見たようです。いずれにしてもこのような大事業を完遂するまでには大変な苦労があったことは想像に難くありません。

ただ祖父は本来ですと岐阜県の自坊(伝流寺)に戻る立場であったようですが、しかし事情により大正8年、現在の私の寺、樹教寺第2世住職として入寺することとなり、輪番職を兼務しながら住職の勤めを果たしていたように思われます。

その意味で小職が現在当寺第5世住職を継承していることは、誠に不思議なご縁と言わざるを得ません。どうか御遠忌事業として予定通り本堂等改修工事が完成されますことを心より念じ上げます。

新十津川町樹教寺
住職 浅野俊道



横井恵雄の
ぶら~り訪問!



別院しらべ隊に一通の情報が寄せられました。情報提供者は、旭川別院責任役員高田五郎さんからでした。内容は、「この旭川別院を建立された旭川別院2代目輪番・浅野識師の御子息が北海道の新十津川のお寺におられる」という事でした。

別院しらべ隊では、寺院名簿から新十津川にある浅野さんという方が御住職を務められているお寺を探した結果、樹教寺というお寺が出てきました。確証はありませんでしたが、失礼を承知で電話で尋ねた所、浅野識師がおられたお寺である事がわかりました。お話を是非聞かせてほしいと尋ねた所、快く承知して頂きましたので10月21日に尋ねました。現在第5世住職である浅野俊道師から、法務の忙しい中お話を頂きました。

別院しらべ隊調査員の中で謎になっていた浅野識師の名前の読み方は「あさのみとむ」と読むようで、調査員一同の悩みが一つ解決致しました。

樹教寺の開基住職は桂樹義教師という方で、浅野識師は第2世住職をされていたそうです。浅野識師は岐阜県羽島郡堀津村の第12世伝流寺住職でありましたが、明治42年に北海道函館別院根室支院の在勤となり、まもなく根室別院に昇格するや、本山の命で明治44年5月に初代輪番として勤務することになったそうです。その後、大正4年5月に旭川別院2代目輪番となり、本堂・庫裏等の建立に力を注がれたそうです。旭川別院本堂建設当初は大変苦勞され、大正10年10月にはそのご苦勞に対し旭川別院から感謝状が贈られています。

現住職・浅野俊道師は当時の事を聞きに来る人がいるとは夢にも思わなかったそうで、当時どのような苦勞があったかは直接には聞いていないそうです。

※浅野識師の歴史が記載されている『樹教寺開基百年記念誌』を現住職より頂き、参考資料とさせて頂きました。

仏具が取り外されていきました…



御本尊の安置されていた宮殿の屋根



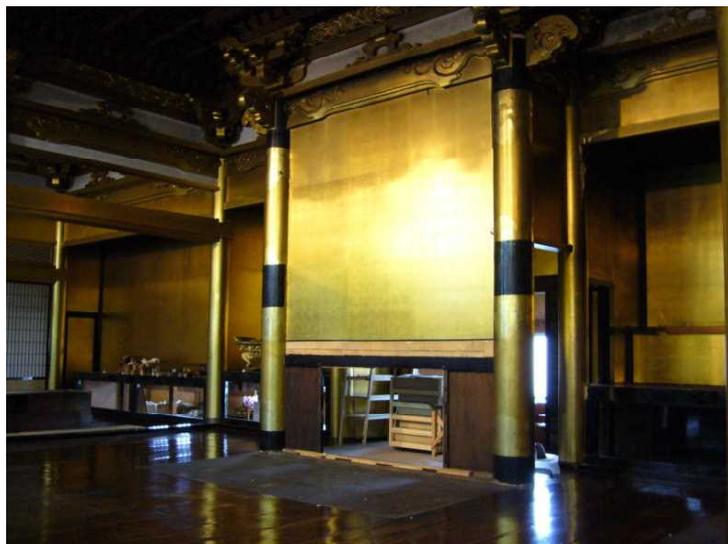
親鸞聖人の厨子



宮殿を支えていた須弥壇



欄間・金障子も取り外されて、梱包し一路京都へ。



今では「すっからかん」です…

鐘楼堂



明治41年(1908年)1月9日 鐘楼堂竣工

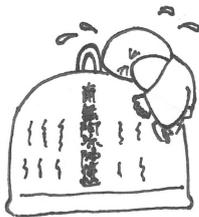
棟 梁 小林 嘉助

梵 鐘 今村久兵衛 作(大阪)

梵鐘価格 991円5銭(明治41年当時)



第2次世界大戦が激化する昭和17年(1942年)9月7日、北海道庁に於いて北海道仏教界の各宗派代表と文部省阿原宗教局長が懇談。これによって各寺院の梵鐘及び仏具を供出することとなる。それ以来、旭川別院の鐘楼堂には梵鐘の姿は無く、その音の響きが絶えていたが、第11代輪番結柴信雄師は蓮如上人450回御遠忌記念事業として「佛恩報謝の鐘」の再建の意を決し、昭和23年(1948年)9月5日に『梵鐘供養法要』が行われ、現在に至るまで「正覚の大音」を私たちに伝えている。



昭和23年(1948年)9月5日 梵鐘再建

梵 鐘 鋳物師老子次右衛門 作(高岡市)

梵鐘価格 35万円(昭和23年当時)